あのときの常呂・写真館

VOL 58

（１９７４年）

昭和４９年７月６日
常呂漁協第１回目のホタテ無料配布

▶昭和４９年の７月号の広報は、「とれたてのホタテを５トン、漁協が住民にプレゼント！」という見出しで、次のように伝えています。

＊新鮮なホタテをまず地元住民にと、常呂漁業協同組合がこの６日、町内のすべての家庭にホタテを無料配布しました。これは日頃お世話になっている町民へのお礼と、外海のホタテ漁が１日から解禁になったことを機会として行った漁協のイキなサービス。この思いがけないプレゼントに家庭の主婦は大喜び。ほとんどの家庭でホタテ料理に舌づつみをうつ一日となりました。

＊外海ホタテの大部分は、人工的な稚貝の放流によるもの。漁協では４６年から１億個以上の稚貝を大量に放流し、この結果、オホーツク海沿岸はホタテの有力な漁場になりました。この稚貝の大放流には町の助成があるなど、町民の協力によるものとして、この日の

プレゼントとなりました。
＊午後４時すぎにホタテを満載した漁船が入港、漁協と町のトラックで各区長宅前へ。バケツやビニール袋を持ってつめかけた主婦や子どもたちに、１家庭８枚ずつ配布されました。また、各農家には農協青年部が戸別配布して協力しました。
▶また、昭和５３年１２月の「広報ところ」では、１１月１７日に常呂漁協がこの日の朝水揚げしたサケ４，７００尾を漁協と役場の職員が、オス２尾ずつ計３，２００尾を１，６００戸の家庭に無料で配布したことを伝えています。

▶常呂漁協によるホタテの無料配布は、残念ながら合併以後なくなり、このような風景は見られなくなりました。振り返ると他の町ではお目にかかれない豪華なプレゼントだったと感じます。

＊上：昭和６２年９月９日の無料配布
＊左２枚：昭和５０年７月の無料配布
＊下：平成１７年９月８日の無料配布